

54 洗浄の手順に関する研究 (第3報)

—実際洗たくを顧慮した洗浄手順の再検討—

千葉大教育 市原 栄子

1 前回にひき続き、洗浄の手順ならびに洗剤使用量の立場から、経済的、合理的な洗浄方法を究明することを目的とした。今回は従来の研究成果にもとづき、これらと実際洗浄との関連を一そう密にするため、洗浄条件は実際可能な範囲内からえらび、その間に考えられる能率的な洗い方のみを対象として再検討を加えた。

2 洗剤濃度 0.1~0.6%, 洗浄総時間 15分, 温度 40°C に限定し、水予洗の程度による影響を調べるため、水予洗を1分と5分との2法とした外、更にこれに準ずるものとして短時間の水予浸を追加し、これらを本洗い前の処理条件とした。なお、本洗いは2回まで行い、各々の洗い方による優劣を比較した。

3 (1) 水予洗は極めて効果的であり、その程度については1分間よりも5分間行った場合に明らかに洗浄力の増進が見られる。

(2) 第1報に於て、長時間(少くとも8時間以上)の水予浸はかえって汚れを落ちにくくすることを報告したが、40°C, 30分の水予浸は、水予洗より劣るが、処理しない場合よりも有効である。

(3) 水予浸後水予洗しても水予洗のみの場合と同程度の効果しか現われない。

(4) 1回洗いよりも2回洗いする方が、洗浄効果をもたせることができる。この場合にも水予洗の効果は顕著である。